



アンラッキー・モンキー

A FILM DIRECTED BY SABU

堤 真一 / 清水 宏 / 山本 亨 / 鈴木一功 / 吉野公佳
 寺島 進 / 六平直政 / 根岸季衣 / 堀部圭亮 / ダイアモンド☆ユカイ
 サブ / 田口トモロヲ / 大杉 漣 / プロデューサー: 佐谷秀美
 原案・脚本・監督: サブ / 撮影: 栗山修司 / 照明: 鳥越正夫
 編集: 宮田三清 / 録音: 山方 浩 / 美術: 大庭勇人 / 音楽: 岡本大介
 配給: 松竹富士 © 1997 松竹 / 衛星劇場 / SUPLEX INC.

UNLUCKY MONKEY

あまりといえばあまりの運命。気がつけば強盗・殺人犯。たった一夜の不条理迷走エンターテインメントは過激でせつない。

全地球上の
不幸を
背負った
ような気がする



心が空っぽになるまで 突っ走れ。

アブナイ女神の微笑みに、 そいつの神経は 発火寸前。

北野武をして「ジェシーを覚えた」
(1998年 東スポ映画大賞/ポストマン・ブルース)
といわしめた俊英、サブ監督の超高速度シニカルワールド。



“おまえが引き返すと言っても俺はそれを認めるな” 仲間と喧くフリをして、ちょっと不安な自分を認める男。武器を手に、顔には覆面を被り、銀行に向かう。“今日のこの気候、こいつが天分を分けると思うんだよな”

そう。その日の気候はマズかった。何もかもがマズかった。なぜかはわからない。銀行に足も踏み入れていないのに、現金入りのカバンと刃物を手に逃げ出すハメになる男。アンラッキーでイカれたムシ暑い夜。意志も理性も制御不能。現実逃避さえできない男の苦悩が織りなす、たったひと晩の過激でせつない不条理エンターテインメントの登場だ!!



UNLUCKY MONKEY

意識の極限に迫る、過激なエンターテインメント



96年『弾丸ランナー』。97年『ポストマン・ブルース』。そのスピード感とパワーで日本のみならず、世界の映画祭に衝撃をもたらした俊英・サブ監督。98年夏、『アンラッキー・モンキー』ではそのシャープな映像感覚と背中合わせのとぼけた味わいを保ちつつ、まったく新たな一面……人間の内面にある弱さ……を見せてくれる。

山崎を演じるのはサブ作品3度目の主演となる堤真一。今回はそのしなやかな感性と躍動する肉体で、「能書きの多い詐欺師」役に挑戦。肝心なときにその弁舌が役に立たないアンラッキーな男のたった一夜の魂の葛藤を繊細に、パワフルに演じきっている。アンラッキーな展開に巻き込まれる美容師・美紀にサブ作品初登場の吉野公佳。山崎の物語と並行し、意外なラストにむかってもつれこむアンラッキーな弱小組織「村田組」の組員にサブ作品常連の清水宏、山本亨、鈴木一功。前作に引き続き、ダイヤモンド☆ユカイ、堀部圭亮、田口トモロヲ、鷹 赤児、北野映画での活躍が目覚ましい大杉漣、寺島進らの個性派がクレイジーな一夜を彩っている。



アンラッキー・ A FILM DIRECTED BY SABU モンキー

1998年ベルリン国際映画祭
フォーラム部門 正式招待作品

1997年/カラー/ヴィスタサイズ/106分/100mm

© 1997 提供:松竹/衛星劇場/SUPLEX INC. 配給:松竹富士



8月15日(土)ロードショー

〈前売券好評発売中〉一般1,400円(当日一般1,700円・学生1,400円)

ホワイトティ泉の広場上がる東へ5分
扇町ミュージアムスクエア
06-361-0088

上映時間(連日) 12:35 2:40 4:45 6:50